発　行
社会福祉法人　吉備路の会
吉備路学園
〒719-1155
岡山県総社市小寺1553番1
TEL（0866）92-6580
http://kibijigakuen.ecgo.jp

社会福祉法人　吉備路の会

吉備路学園

第55号
令和4年12月26日 発行

燃えるような秋

見方を変える尊さ

理事長　小原　章弘

人間関係を円滑にするため、人が幸せな人生を送ろうとするために、過去がどんなものであろうとも、今を生き、今の状況で計画しなければならないことが、いかに大切であるか？ということであります。

要するに、見方を変えると、気分も変わると同じように、相手を変えようと思っていても変わらない。

相手を変えるよりも、自分自身または、周りの環境を変えてみるという発想の転換をしてみることも大事ではないでしょうか。

先生という職業は、どうしても「教えてやっているんだ」「私の言うことは絶対だ」

「先生の話を聞け」といった感じで、学生をみてしまうことがあるように感じます。上からものを言うといった感じです。

よって、傲慢にも「教えてやる」という発想ではなくて、「・・・させて頂く」という気持ちを持つということであります。

思いやり・・・お互いに思いをやりあうといったような「思いのキャッチボール」ができれば、人間、物に対してもそういう思いや考えをもってみることも大切なのではないでしょうか。

自分の見方、考え方が違っていたなというものがたくさん見つかると思います。

例えば、コミュニケーションで言いますと、

言葉・・・・・・7％
声・・・・・・・38％
表情・・・・・・55％

言語より非言語の伝えるメッセージの方が大きいということであります。

「優しい笑顔」、「おだやかな声」など、いいと思います。

見方・考え方を変えることによって、お互いを思いやる心に繋がります。

職場だけではなく、人間関係においても、お互いに尊敬しあい思いやる心を持っていただきたい。そうすれば心も穏やかになります。

仕事の中で時間に追われてイライラしたり、人に対してイライラしたり、感情が露わにでそうな時は「心の一休み」を

ひと休み　一休み

吉備路学園 自治会活動

◆お花見◆

◆フライングディスク大会◆

◆日中サービス支援型共同生活援助吉備路◆
一周年記念祭（三須祭）

みんなで
がんばったね！

◆ひな祭り◆

◆第7回 介護グランプリ 優勝◆

◆第3回ファイヤーセービング大会◆
敢闘賞受賞

成年後見制度の活用について

障害者支援施設 吉備路学園
管理者　槙枝　浩文

最近、ご利用者様の年金の管理についてご相談を受けることがありました。現在は、銀行などで行う現金の扱いにおいて制限が厳しくなっており、たとえ両親であっても、成人した我が子の口座から現金を下ろすことが出来にくい状況にあるようです。

現在、法人内には百人を超える障害者の方がサービス利用されていますが、ほとんどの方が知的障害であり、お金の管理については苦手分野です。特に、ご自身の年金管理となると半数近い方がご家族に管理をしていただいているのが現状です。そのご家族の方がご高齢になられたり、銀行の制限が強くなると今まで行えていた管理ができなくなることが想定されます。

そのようなときに活用していただきたいのが成年後見制度です。本人の判断する力に応じ、後見、保佐、補助の三つの類型があり、本人の財産を守ったり、本人の代わりに様々な契約を代行してくれる制度です。

制度を利用せずとも親兄弟でしっかり管理できることが理想ではありますが、お住まいの地域や家族構成などにより家族への負担を強いられるケースもあります。また、手続きの問題もあり、いざ必要な時に手続きできる親族がいらっしゃらないケースもあります。現状では、施設からの申し立て手続きも原則できないことになっていますので、もしもの時に備え、今一度制度利用のご検討をお願いいたします。

制度についてはこちらをご確認ください。

成年後見制度について

今年の気遣いベスト3

多機能型事業所 みぞくち
所長　延原　良純

今年、私がみぞくちで特に気を遣ったこと。

第3位、「節約」。あれが欲しい、これが壊れたと容赦ない。必要な物は購入したが、あれを作り、これを修理。出来る限り経費を節約するよう、もったいない精神で心掛けた。

第2位、「利用者の皆さんの満足感」。これは今年に限らずの事。みぞくちで同じ時を過ごされる利用者の皆さん。元気に来て、満足げに帰る。そんな日々が毎日となるように。

第1位、「みぞくち利用者・職員そして、そのご家族の健康」。言うまでもないが、これは一番気になる事。特にここ数年のコロナ禍では、少しの体調の変化も見逃せない。感染が無いように、感染しても広がらないように、と気遣っていたが、9月のクラスターは正直悔いが残った。健康あっての皆さんの活動。これからも気遣っていきたい。余談だが同率1位に「自分の家族」。家族円満がすべての土台。大切にしていきたい。

【第7回介護グランプリ2022努力の結晶】

日中サービス支援型
共同生活援助吉備路
サービス管理責任者
延吉　彦志

チーム吉備路（内川・森本・筒井）は、介護グランプリの予選（15チーム出場）を通過し、令和4年11月11日本選（5チーム）に出場し、優勝しました。

介護グランプリの案内が来た時、チームの1人に声を掛けました。案内を渡した職員は、浮かない様子でありましたが、案内を両手で受け取ったので、〝いける〟という確信がありました。浮かない様子ではありましたが、心は前を向いているなと感じました。その後、チームを築き上げ、陰ながら努力をしている姿が見られました。

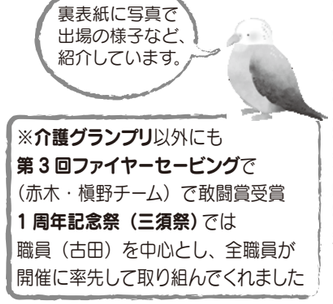
また、日々の利用者さんの支援がありながら、その合間を縫って努力をする姿も見られました。その中で、3人が忘れていなかったのが、目の前にいる利用者さんへの寄り添った支援です。その中でも、「思いやりに寄り添う」「心に寄り添う」「いのちに寄り添う」です。

本選前日に、介護（支援）方法を聞きにきた職員がいました。その時は、本選前日で、緊張と戸惑いがあったのか、「心に寄り添う」という部分が抜け落ちそうになっておりました。私は、「3人が今の時点でこれをすると決めたなら、変えない方が良い、前回の介護グランプリの動画の動きと違っても、変えない方が良い」というアドバイスを伝えました。そのアドバイスが良かったかどうかわかりません。それよりも、3人の日々の努力だと思います。結果、「思いやりに寄り添う」「心に寄り添う」「いのちに寄り添う」支援を介護グランプリで表出することが出来たのではないかと思います。

今回の優勝は、予選から本選まで他のチームを寄せ付けない強さでした。また、障がい分野のチームが出場し優勝するのは初です。

介護福祉士会の方は、「業務中心ではなく、利用者中心の支援（寄り添った支援）が1番見え、日々の支援の中で根付いている」というご意見を頂きました。また、前評判での介護施設が勝つだろうという概念を履し、障がい分野やるじゃんというお声もありました。

今後は、利用者さんの支援・実習生さん・福祉を志している方々に、伝授して頂きたと思っています。常に初心を忘れずに自己研鑽に取り組んでいただきたいとも思います。



※**介護グランプリ**以外にも
第3回ファイヤーセービングで
（赤木・槇野チーム）で敢闘賞受賞
1周年記念祭（三須祭）では
職員（古田）を中心とし、全職員が
開催に率先して取り組んでくれました

グループホームにおける新型コロナウイルス感染対策と感染後の対応について

障害者共同生活援助
グループホーム井手
管理者　古賀　信彦

新型コロナウイルス感染の収束や拡大が繰り返される中、日常生活での行動制限を利用者の方にお願いせざるを得ませんでした。余暇の外出がコロナ禍前のように出来なかったり、リビングの共有スペースに人が集まる事を避ける為、出来るだけ居室で過ごす生活等、制限の多い生活を送って頂きました。また、新型コロナウイルス感染防止に基づき手洗い、アルコール消毒、マスクの着用の徹底等、感染対策に重点を置き支援を行いました。

しかし、4月から9月にかけて利用者5名と職員2名が感染しました。今回、新型コロナウイルスに感染しましたが、感染対策の必要性は勿論であります。発生した後の対応で①【医療との連携体制の確保】②【人員体制の確保】③【生活空間等の区分け】の3点が大切であると感じました。

新型コロナウイルス感染の終息については、まだまだ今後の対策次第で、どのような状況になっていくかは予想ができませんが、グループホーム井手においては、今後も基本的な対策は変わらず行っていきます。

アラフィフのつぶやき

相談支援事業所
サポート吉備路
管理者　村上　雅昭

私はあまり小説を読む方ではないが、高校生の時に歴史小説にはまったことがある。代表的なものとしては司馬遼太郎の「竜馬がゆく」である。坂本龍馬の生き方、考え方に魅力を感じ、大学に入ってからは竜馬が過ごした場所に行ってみたくなり桂浜、室戸岬、を歩いて回った。また、新選組を題材とした小説を読んで池田屋、寺田屋などがある京都の町を歩いて回った。歴史小説の中でも特に幕末は面白い。それぞれの考え方が違うものが自分の意志を持ち、突き進んでいく姿に惹かれてしまう。その中でも見どころは黒船来航から、大政奉還までの歴史の移り変わりだ。鎖国をしていた日本が、黒船来航により、一方的な開国を迫られ、ただ米国と戦うという選択ではなく開国、貿易に向かってく所が、この時代の魅力の一つだ。今の日本でも他国の脅威から自国を守る為にどうすべきかと様々なところで議論されている。最近は何でも物事を直感的に考えてしまいがちだが、今後の日本についてちょっと立ち止待って、歴史に学ぶ事も必要かもしれない。と才谷梅太郎も鼻水を垂らして言っている。

◇寄付◇

令和四年二月一日～
令和四年十一月三十一日
〈敬称略・順不同〉

《寄付》

吉備路学園家族会
吉備路の会後援会
秋田皓二　薬師寺主明

新任・退職のおしらせ

《新任職員紹介》

令和四年二月二十一日付
支援員　平松　大輔

令和四年四月一日付
支援員　槇野　京妃
支援員　大番　有紀乃
支援員　吉田　優子
世話人　泉　トシ子

令和四年四月二十一日付
支援員　数井　千佐子

令和四年五月十一日付
支援員　浅田　由香

令和四年七月一日付
支援員　渡邊　育子
支援員補助　白神　朋子
世話人　河合　孝子

令和四年九月一日付
支援員　房野　奈津子

《退職職員》

令和四年三月三十一日付
世話人　剱持　三重子

令和四年五月三十一日付
支援員　難波　裕

令和四年六月三十日付
支援員　高田　翔太

令和四年八月三十一日付
支援員　坂本　夏実

令和四年十一月三十日付
支援員補助　榎本　政也

。。。編集後記。。。

最近よく「もう一年が経つのか。早いな。」と耳にする事があり、私自身もそう思う事があります。子供の頃にそのことを意識した人は少なかったと思いますが、年齢を重ねるごとに時間が早く過ぎていくように思えるのはなぜでしょうか。

大人になると日々の生活に追われ時間の心理的長さが短くなる事や、ちょっとした事への感動が薄れていくなど諸説ありますが、私が思うに日々を何気なくぼーっと過ごしているからのような気がします。

それを改善する為には、例えば食事は義務的にするのではなく、素材や作ってくれた人などを思いながらゆっくり味わいながら食べたり、今まで経験したことがないことにチャレンジしてみたり、いつも車で移動しているところをウォーキングしてみたりと、同じ時間の枠の中で出来るだけ意識をして感じる事を増やしていけば、充実した日々を過ごせるような気がします。

たった一秒でも戻れない時間。時間が経つのが早いなと思われている方は、後悔しない為にも、一瞬一瞬を大切にし、充実した日々を過ごしてみませんか。